# 第１４回 京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議 摘録

１ 日　時 令和２年１０月２９日（木）１３時３０分～１５時００分
２ 場　所 京都市教育相談総合センター 会議室
３ 出席者 伊丹・岩井・大森・荻原・國重・小槻・小林・佐藤・塩川・柴原・大黒・高橋・田中・
政所（代理出席）・村田・室（代理出席）・吉岡・吉田（委員は 五十音順，敬称略）
４　内容
（１）　開会，挨拶，委員紹介，本関係者会議について
・座長に柴原委員を指名。副座長に佐藤委員を指名。
（２）　説明・取組報告・協議
・令和元年度いじめ・不登校及び暴力行為の状況について
・新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる生徒指導と児童生徒等の心のケアについて
（３）　閉会

## 令和元年度いじめ・不登校の状況について

（事務局からの説明）

○ 文部科学省が実施した令和元年度児童生徒問題行動等の調査結果が，１０月下旬に広報発表された。

○ いじめ認知件数は，全国では過去最多の６１．２万件となり，前年度比１．１倍となっている。

○ 京都府では，少し減少したが，京都市では増加している。京都市では，小学校・中学校・高等学校・総合支援学校合わせた認知件数が２，８５９件と過去最多となっている。千人比では，京都市は３０．０と全国と比べると少なめであり，政令指定都市では２０都市のうち１２番目となっている。

○ 平成２５年にいじめ防止対策推進法ができてから以降，全国的に認知件数が増えているが，文部科学省は，積極的認知の結果であり肯定的に評価をしている。

○ いじめの態様としては，全ての校種において「冷やかしやからかい，悪口や脅し文句，いやなことを言われる」が最も多く４５．４％。昨年度も同じく４４．７％であり，全体の半分弱がおおよそこの態様というのが例年の傾向である。二番目が「金品を隠されたり，盗まれたり，壊されたり，捨てられたりする」，三番目が「軽くぶつかられたり，遊ぶふりをして叩かれたり，蹴られたりする」となっている。携帯電話の所持率によって変わってくるが，中学校では「パソコンや携帯電話等で，誹謗中傷やいやなことをされる」が多くなってくる。

○ 小学校と中学校での不登校の児童生徒数について，全国では１８万人であり，全国・京都府・京都市とも増加。京都市では小学校と中学校を合わせると１，５３７人だった。千人比は１７．３で全国との比較では平均より低く，政令指定都市では１７番目となっている。
京都市も全国と同様に増加している。

○ 高等学校においては，京都市は６５名となった。ここ数年は５０名以下で推移していたが，千人比を全国と比べてみると少ないものの，今回は増加となった。

○ 暴力行為について，全国数値では，小学校において過去５年間で大幅に増加している。京都市全体でも増加しており，千人比は全国より多く，政令指定都市では８番目の数値となる。中学校について，平成２７年度までは，全国を上回るペースで減少していたが，全国では引き続き減少しているのに対して，京都市はやや増加傾向にある。

（委員からの主な意見）

【岩井委員】

○　今年度は，コロナの関係もあるが，学校現場では不登校については非常に厳しい状況である。素早く教員が対応してくれているが，不登校児童生徒の改善が難しい状況であり，保護者からの相談もある。

○　学校現場としては，暴力行為が増えていることに驚いた。いじめについては，今までより声があげやすくなってきたのだと感じている。

【高橋委員】

○　人権擁護委員ではSOSミニレターを小中学校に配布している。友達同士のいざこざを，両親にも，学校の先生にも言いにくいことを書いて送ってくれる。今年はコロナの関係もあってか，例年より件数は少ない。電話対応している時に感じることは，母親の気持ちの捌け口がないように思う。そういう時は傾聴することが必要。

【大森委員】

○　不登校の件数には表れないが，登校渋りが増加しているのではないか。学校現場はコロナ禍のために例年にない業務があり，そうした児童のケアをしようにも，人手不足で大変なのではないかと感じる。

【柴原座長】

○　京都市の暴力件数が増えたことについての分析は？

【事務局】

○　暴力行為は確かに増加しているが，積極的認知をしていると考えている。いじめの態様にもあるように，「軽くぶつかられたり，遊ぶふりして叩かれたり，蹴られたりする」「ひどくぶつかられたり，叩かれたり，蹴られたりする。」部分についても暴力行為と認知している。

【田中委員】

○　今まで元気に学校へ行けていたが，コロナの関係で学校へ行けなくなった子がいる。親御さんも心配していたが，話を聞いてもらうことで少しずつ改善している。学校や家庭以外の場所が必要であり，親の気持ちを支えられる場所も必要だと思う。

【高橋委員】

○　子どもが家に帰って来たときに，どのような顔で迎えているか？しんどい顔で迎えていると子どもにも伝わってしまう。前向きに迎えてあげたいものである。

【小槻委員】

○　数値の分析が必要だと思う。いじめの認知件数が多いということは，いじめを早期対応していることになると思うので，一定の評価ができる。

○　不登校・暴力行為は，一時期減少していたが，その時の取組や成果の確認を含めて，現状との比較分析が必要だと思う。

○　学校で生活することは，子どもにとってすごく成長する場と思うが，コロナの影響で授業を補うため，７時間授業等の負担が子どもに押し寄せてきていると思う。

**新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる生徒指導と児童生徒等の心のケアについて**

（事務局からの説明）

○　今年度は，新型コロナウイルスによる教育活動への影響が否めず，本市としても教育課程の工夫

など様々な取組を行った。この間の生徒指導や心のケア等についても取組について説明する。

○　まず，中国から帰国した児童生徒等への対応として，文部科学省の通知に基づいて各校園へ通知を行ったが，２月下旬になり，全国の全ての学校で臨時休校の要請がある中，京都市では令和２年３月５日から翌年度の始業日までまで臨時休校とした。その際，臨時休校期間における生徒指導として，「規則正しい生活を送ること」「不要不急の外出を控えること」等の通知を行った。また，心のケアについては，感染者やその家族及び医療従事者等への誹謗中傷，偏見，いじめに十分配慮するように通知した。

○　今年度に入り，急速に新型コロナウイルスが拡大傾向であったことから，再び４月１０日から５月６日（最終的には５月３１日まで延長）まで臨時休校とした。

○　この時の通知としては，非常に長期間となるため，児童虐待や，DV の発生に留意し，支援を要する児童生徒の生活環境の把握や，児童相談所等との連携を行うとともに，新型コロナによるいじめの偏見や心のケアについて通知を行った。

○　保護者の方も子どもと過ごす時間が長くなることから，家庭での関わり方等を示した「子どものストレスへの理解とご家庭での心のケア」という保護者向け資料を，各校園のホームページに掲載している。

○　相談しやすい窓口として，市立中学校及び高校生を対象に LINE を活用した「京（みやこ）SNS 相談」を緊急開設し，５月７日から９月３０日まで実施した。

○　６月から段階的に学校が再開するにあたり，不安やプレッシャーを感じている児童生徒や，不登校や不登校傾向の児童生徒の状況把握や支援を行うことや，新型コロナによるいじめや偏見が生じないように配慮する旨の通知を行った。

○　長期にわたる休校明けの児童生徒の生活環境の変化を踏まえ，心理的ストレス等の把握のため，全校で「こころとからだのアンケート」を実施した。

○　学校現場では，日本赤十字社が作成した資料（「新型コロナウイルスの３つの顔を知ろう！」）を使って，児童生徒が人権学習等を行っている。

【柴原座長】

○　各校種での現状や対応をお聞きしたい。

【塩川委員】幼稚園長会代表

○　幼稚園では，保護者にアンケートを取り心配される家庭については預かり保育等で保護者の援助を行ってきた。また，遊び等の動画を作成し，ホームページで紹介をしてきた。

○　再開後，園長会エールプロジェクト（新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた，社会全体の取組や努力の様子を園児が学ぶとともに，園児や保護者の頑張る様子や，応援する様子を社会に発信し元気や勇気を届ける）を立ち上げ，様々な発信をしてきた。

【柴原座長】

○　気になる保護者には，直接，家庭へ訪問等したのか？それとも電話で行ったのか？

【塩川委員】

○　基本的には，担任の先生から電話で対応した。

【國重委員】小学校長会代表

○　授業で習っていないことを，どのように家庭で学習するのかということが課題だったが，授業の動画を作成するなどし，ホームページで配信したり，プリントを配布したりして対応した。

○　今まで不登校で学校に来ていない児童が，休業期間明けの分散登校で学校に来れるようになった

事例もあるが，行き渋りの児童も増加したと聞いている。

○　また，濃厚接触者の場合，陰性であっても２週間の自宅待機となるが，そうなると自分が濃厚接触者と特定されることを不安に思われた事例もあったと聞いている。

【村田委員】中学校長会代表

○　４月・５月の状況は，非常に苦しい状況だったが，学力保障をするために，プリントを配布したり，ホームページで動画を掲載したりするなど，手探りの中で学びの保障を行ってきた。

○　６月から学校が再開したが，小学校と同様，学校に来れにくくなっていたが分散登校の際に，少しずつすることができるようになる生徒もいた。

○　再開後は，見逃しのない観察，手遅れのない対応・心の通った指導をすることを心掛けた。

○　学校行事において，修学旅行や，体育大会が開催できたのは保護者の理解と生徒の協力によって再開できた。自校では，修学旅行の解散式後，生徒が「ありがとう」と言ってくれた。校長経験の中で初めて。これからも工夫をして取組を続けていきたい。

【吉田委員】高等学校長会代表

○　教師と生徒，学校と家庭のつながりをなくさないように心掛けた。Wi－Fi の環境やタブレットの配布をしたが，ICT 環境の整備面で学校により傾斜があり，全校同じ取組ができたわけではない。しかし学びを止めないように授業配信や課題配信を行い，Ｚｏｏｍを使って面談をするなど，各学校が工夫をして生徒や家庭とのつながりを切らないように取り組んだ。

○　再開後，通常に戻ってきたが，これからは大学入試や面接のことが問題となっている。大学ではオンラインでの面接や入試方法の変更を考えている例があり，生徒のストレスが心配される。

○　京都奏和高校の生徒支援や学びの取組を，他の市立高校でも状況に応じて柔軟に取り入れていくことも必要である。

【柴原座長】

○　今回のコロナで，オンラインでの使い方についてスキルを学んだと思うので，これから生かしていければ良いと思う。

【伊丹委員】総合支援学校長会

○　総合支援学校は小学校１年生から高校３年生までいる。一人ひとりの障害や対応も違う。総合支援学校は「特別受入」を行った。

○　「特別受入」を利用したのは，全体の１割程度だったが，放課後デイサービスを活用した家庭も多かった。

○　虐待等気になる家庭は，直接，家庭訪問を行った。

○　再開後も，まだ不安のため休んでいる児童生徒もいる。

○　授業については，小グループで活動したり，オンラインによる授業を実施している。

【柴原座長】

○　次回には，本日の課題等について分析した結果を教えていただきたいと思う。